

特集Ⅰ．第4回大東文化大学看護学会総会

チューター活動の経験を通して 今の私が考えたこと

中田 ひより

大東文化大学 スポーツ・健康科学部 看護学科

I. とにかく行動することが大事!

時は大学1年生の春にさかのぼります。

当時の私は

- ・ネガティブ
- ・めんどくさがり

なところがあり、自分に自信が持てなかった時期でもありました。

そこで、そんな内気な自分を変えるために目標を立てました。

それは「物事に対して興味を持ち自分から積極的に動く」ということでした。

大学の春は、サークルやボランティア活動の勧誘が多く、積極的に動ける機会が多くあり、様々な説明会・新入生歓迎会に参加しました。その中の1つがこの『交流学生のチューター募集』でした。

この制度をご存じない方もいらっしゃると思うので、簡単に説明させていただきます。チューター活動とは、授業の空き時間を利用して大東文化大学の交換留学生に日本語や日本の文化を1:1で教えるという制度です。

もちろんチューター説明会にも参加しました。しかし、あまりの人の多さや他学部にも圧倒されました。またエントリー制で枠が限られているとのことだったので当然ネガティブな私は、「私なんかは…」と気が引けてしまいました。

それでも、とにかく行動することが大事だ、めんどくさがりやの私が動けて偉い!と自分を褒めながらエントリーシートを提出しました。



Ⅱ. 多文化に囲まれ、環境が新しく、新鮮な気持ちに

その結果、まさかのチューター活動採用。電話で何度も聞き返してしまったのを覚えています。

そんなこんなで最初の学生との顔合わせが決まり、とても緊張したことを今でも鮮明に覚えています。

私が初めて担当させていただいた学生さんはこの写真の国なのですが、みなさんの中にもぽっとあの国だと気付いた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

初めて担当した学生さんは台湾の女子学生でした。彼女と初めて会った時、日本に来てまだ2週間くらいでした。

しかし、日本のドラマが大好きでそれを見ながら日本語を覚えていたため、既に日本語で会話できる状態でした。

そんな彼女は、私と初めて会った時からまるで以前から友人であったように話しかけてくれました。

彼女は

- ・ポジティブ
- ・フレンドリー
- ・行動的な

人で当時の私とは真逆でした。そんな彼女に、最初は私も緊張しました。

しかし、彼女のおかげでしゃべれるようになり、次第にチューター活動で会うだけではなく、キャンパスでお昼ご飯を一緒に食べたり、放課後に彼女の寮に遊びに行ったり、休日にも一緒に過ごすようになりました。

そして、それと同時に彼女の友人達（例えば、タイ・アメリカ・インド・韓国）といった様々な国から来ている留学生達とも関わることが多くなりました。それにより私は一気に多文化に囲まれ、私が留学生なのではなのかと思うくらいでしたがそんな環境がとても新しく、新鮮な気持ちでした。

Ⅲ. 寄り添う気持ちがあっこそ良い関係を構築できる

彼女とその友人達と大学生活を送るうちに私に様々な学びや変化が起こりました。その中で今日は2つ紹介させていただきます。

日常生活で彼女たちと関わる上で大事にしていたことがあります。

例えば、当時彼女は大学で現代文をはじめ古文や歴史などたくさんの授業を取っており、また検定試験を受けるために常に日本語の勉強をしていました。そのため、会話はほとんど理解することができており、彼女の話す日本語は教科書のように整っていました。

しかし、私達が友人達と話す日本語と教科書に書いてある日本語はちょっと違ってきます。

その違いとは、様々な要因があります。その一つとして、私達の会話の中では、主語・動詞・目的語が省略されてしまっても私達日本人の間では伝えたいことが伝わります。

ex.) 「それとってよ」「超いいじゃん」

そのため、少し気が緩んで彼女にいつも友人達と話している日本語で話しかけてしまった際

「どういう意味？ そんな言葉、教科書にもなかった！ そういう日本語って日常にあり過ぎてよく分かんないで反応しているの。もっと教えてよ！」と言われたことがあります。

ここで私は、普段何気なく話している日本語や話題に対して彼女たちは、しっかり聞いていて、それはどういう意味なのだろうと疑問に感じている場面があるということ。

また、それを曖昧に反応していることがあるのだと気付かされました。

そのため彼女達に対して心掛けたことがあります。それはわかり易い日本語、つまり主語・動詞・目的語を整えた文章で話すように心掛けることでした。

そして、必要に応じて彼女のわかる日本語を使いながら、会話によって彼女達と私の間で壁ができないようにすることでした。

そこで、私はチューターとして、そして日本人として彼女達と接する際、一方的に日本語や日本の文化を教えるというのではなく、配慮し私達から寄り添う気持ちがあってこそ良い関係を構築できるのだと学ぶことができました。

もう一つ、彼女達と過ごしていて衝撃であったことがあります。

それは、彼女は日頃からニュースを良く見ていました。そしてそれに対して自分達の意見を交換している様子を1回だけではなく頻繁にしている様子に遭遇したことでした。

当時の私は、ニュースを見る習慣がなく、ましてや友人達とそのような話をしないため、これはとても衝撃でした。そしてその様子を黙って見ていたのですがとうとう話を振られ、まずその話題に挙がっているニュースを知ることから始まり、彼女らに笑われてしまいました。とても恥ずかしい経験でした。

そんな恥ずかしがっている私をよそに、彼女達は意見を交換していました。

そんな彼女らは、様々な国から来ているため、それぞれの国の文化があり、考え方にも差があります。

しかし、全員に共通していたのは、皆の前ではっきりと自分の意見が言え、自分とは違う意見でも、他人の意見を聞きながら共感、学ぶ姿勢を持ちながら会話をしていました。

そんな彼女たちと私は同世代。圧倒的な差を感じました。そこで私は少しでも彼女達のようになりたいと感じ、私でもできることを考え実行しました。

それは、例えばはじめから彼女達のように世界で起こっている出来事を完璧に理解することは難しいです。ですが、日頃から関心を持つようにし、自分の意見が言えるよう、まずは身近にいる祖父母達が見ているニュースと一緒に見て意見を言い合うことから始めました。

また、彼女達が身をもって実感させてくれたように、多種多様な文化・考え方に触れ、学び、理解し、共感する姿勢を持つことが大事だと感じ、彼女達と接する際は忘れずに心掛けました。

最終的にはそれらの論争ともいえる環境に交えてもらえ、「ひより、大人になったね」と同世代に言われ、とても喜んだ記憶があります。

IV. 「自分のことを愛せない人は他人も愛せない」

そんな彼女が良く口にしていた言葉があります。それは「自分のことを愛せない人は他人も愛せない」です。

例えば、これはある日彼女が話してくれたことです。その日の授業で、クラスの前で日本語でプレゼンテーションをしなければいけなかったのですが、彼女は自ら進んで発表者に名乗り出たそうです。

しかし、発表中、日本語の漢字を中国語の読み方をしてしまい、クラスメイトに笑われてしまったと私に話してきました。

その話を聞いたとき、「大丈夫かな？ 落ち込んでないかな」と心配しました。しかし、彼女は、その真逆で笑顔でした。

そして彼女はこういいました。

「クラスの前で失敗して良かったよ、これが検定試験だったら大変なことになっていたし、ここでこの間違いに気付いて私はラッキーな人！ 次か

らは漢字の読み方に注意しながら漢字を覚えていくよ」

と言ったのでびっくりしたことがありました。

彼女は、どんな時も失敗を恐れず挑戦します。万が一失敗しても反省はしますが、決して失敗してしまった自分を卑下することはありません。

それよりも、その失敗から何を学ぶのかを考えることにエネルギーを注いでいました。

そんな彼女を見ていて、当時ネガティブな私は驚きと同時に私もこんな考えができるような人になりたいと思いました。

私達も、日常生活において失敗というものは少なからず経験しているでしょう。しかしその失敗に対して、落ち込んでしまうのではなく、次は失敗しないためにはどうしたらいいかを知る、いいきっかけを得たと考える。

この姿勢はすごく大事であり、この考え方を知った時から私はポジティブな選択をできるようになりました。

5

チューター活動を通して今の私が考えること



多様な文化を理解
学んでいく姿勢を
もつことが大事

新しいことに挑戦する際は失敗を
恐れず積極的に行動するように
心がけ、どんな自分も愛する



目の前にいる患者さんの
ために全力をかけられる
ような看護師になりたい
と考えています

V. 目の前にいる患者さんに全力で接する看護師でありたい

チューター活動，そして彼女達と過ごした経験を通して，今の私が考えることとして3つあります．

1つ目として

将来，外国人看護師や患者さんの受け入れが増えていくと予想されます．

そんな中，様々な場面で私達との文化・考え方とは異なる場面に出会うことも多くなるでしょう．それに対して，私達は「郷に入らば郷に従え」と相手に強要するのではなく，多様な文化や考え方を理解・共感，そして学ぶ姿勢を持つことが大事です．そして，常に文化に配慮するということを忘れずにいたいと考えます．

2つ目として，新しい文化に触れること，つまり新しいことに挑戦することはエネルギーが必要となります．それでも積極的に行動し，失敗を恐れず，万が一失敗をしてしまっても自分を卑下することなく，どんな自分でも愛せるようになりたいと考えます．

そして，3つ目として目の前にいる患者さんに全力で接することのできる看護師でありたいと考えます．

以上が，今の私が考える看護になります．